スポーツボランティア経験をどのように語るのか
～大学生ボランティアに着目して～

武田　道治（競技スポーツ学科　スポーツ情報戦略コース）
指導教官　豊田則成

キーワード：指導力の低さ，協調性，振り返り，関係性

１．緒言

本研究は，「**現場経験による学びをどう語るのか**」というリサーチクエスチョン（Research Question：以下 RQ と示す）を設定し，質的にアプローチした．そこでは，大学生スクールサポーター経験についての語りに着目し，発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出す事を目的とした．

２．方法

インフォーマント（Informant：情報提供者．以下 Inf. と示す）は，大学生スクールサポーターによるスポーツボランティアを経験した 9 名であった．そして 1 人当たり 60 分程度の半構造化インタビューを実施した．分析方法については質的研究の代表的手法であるグランデッドセオリーアプローチ（Ground Theory Approach：以下 GTA と示す）を用いて行った．

３．結果及び考察

分析の結果，「スクールサポーターは，①意識が低く指導することによりズレを感じる．②周囲の人と協調して指導することによりチーム全体で成績を上げることができる．③失敗経験を改めて振り返ることにより生徒との関係性について考える」という仮説的知見を導き出した．

４．まとめ

結果及び考察から，スクールサポーターは「自分の失敗指導を経験し，生徒主体の指導をすることにより，広い視野を持ち生徒を捉えることができる．」と言える．

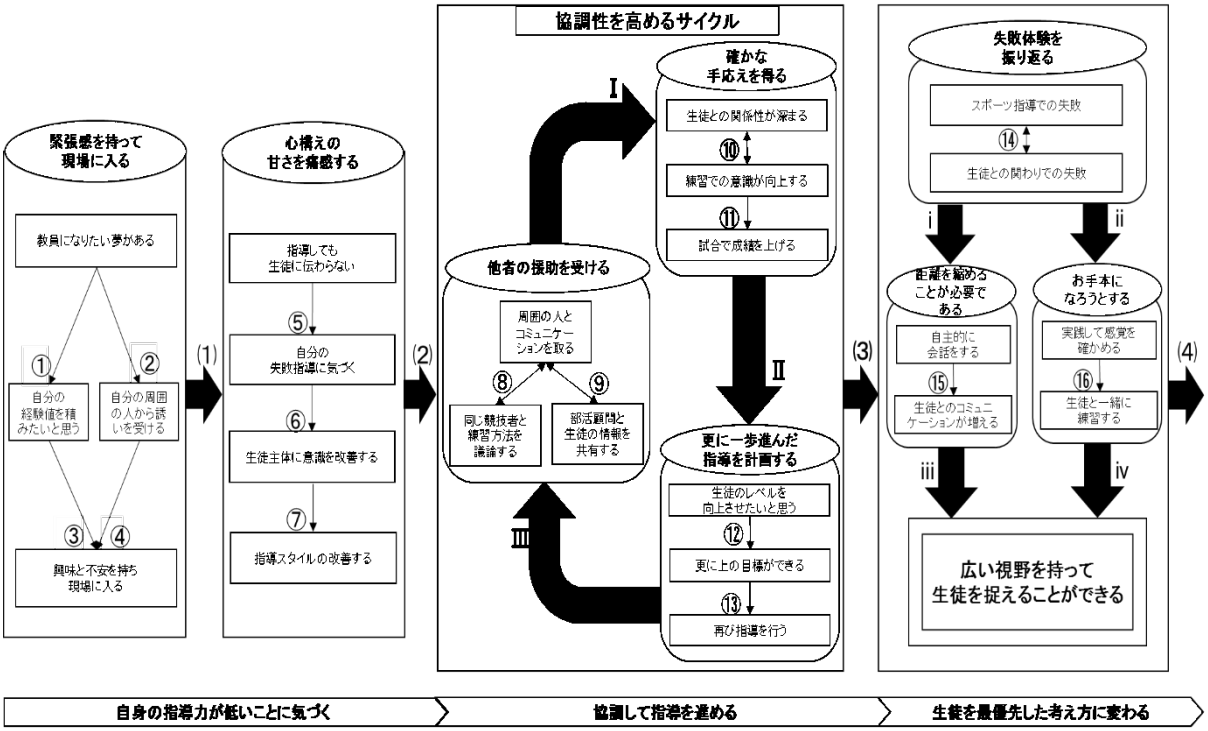

Fig.1 生徒を指導するための関係を見出していくプロセス